

論 文 要 旨

Adipophilin expression is an indicator of poor prognosis in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma: An immunohistochemical analysis
(膵癌における adipophilin の発現は予後不良因子である)

関西医科大学外科学講座
(紹介：関本 貢嗣 教授)

橋 本 祐 希

【背景】

Adipophilin(ADP)は細胞質内脂肪滴上に存在する蛋白であり、いくつかの癌腫においてその発現は予後不良と関連する事が報告されている。しかし、膵癌での発現率や予後との関連は検討されていない。今回、われわれは膵癌におけるADPの発現を解析し、臨床病理学的因子との関連を検討した。

【方法】

2008年1月～2015年12月に当科で肉眼的根治切除(R0/1)施行した膵癌症例213例を対象とした。tissue microarrayを作成し、ADPの発現を免疫組織化学的に検討した。他病死19例および経過観察期間2年未満13例を除外した181例に対してADPの発現と臨床病理学的因子の関連について統計解析を行った。

【結果】

181例中51例(28.3%)がADP陽性であった。ADP陽性症例では、低分化型腺癌($p=0.0012$)、CA19-9高値($>186\text{U/ml}$) ($p=0.0016$)、腫瘍遺残度(R1) ($p=0.028$)が有意に多かった。生存時間分析においてADP陽性症例は予後不良($p=0.007$)かつ無再発生存期間の短縮($p=0.0022$)を認めた。全生存期間及び早期再発(6ヶ月以内)における臨床病理学的因子の多変量解析においても、ADP陽性は独立した予後不良因子であった($p=0.0084$, $p=0.030$)。

【考察】

膵癌切除検体におけるADPの発現は、全生存期間及び早期再発の独立した予後不良因子であることが示された。ADPの発現は膵癌細胞における代謝の変化を反映している可能性があり、ADP陽性膵癌患者に対する新たな治療戦略の開発が今後の課題である。